

「医学を伝える技術 -メディカルイラストレーションの実態と表現方法-」

有限会社 彩考
代表取締役

佐藤良孝 先生

【課題内容】

添付のイラストレーション（資料 A を元に描いた肩の図）に外形から内部を想像して、あたかも透視しているように肩甲骨を描き加えて下さい。

描き加える骨は肩甲骨以外に、肩甲骨を同定しやすくするため上腕骨、鎖骨、広背筋、僧帽筋など周辺の筋骨を加えても良い。

骨筋の形状などの情報は資料 B から理解し、さらにその他の資料を自ら集め、正しいと思われる形状を求めてイラストレーションを完成して下さい。

また、イラストレーション完成までの考察過程を簡条書きに記述して下さい。

補足説明：

（描画方法）

描画のイメージは資料 C のような主に線を用い、鉛筆で描いて下さい。

色が必要と思われた場合は色鉛筆を使って下さい。

（描画の取り組み方）

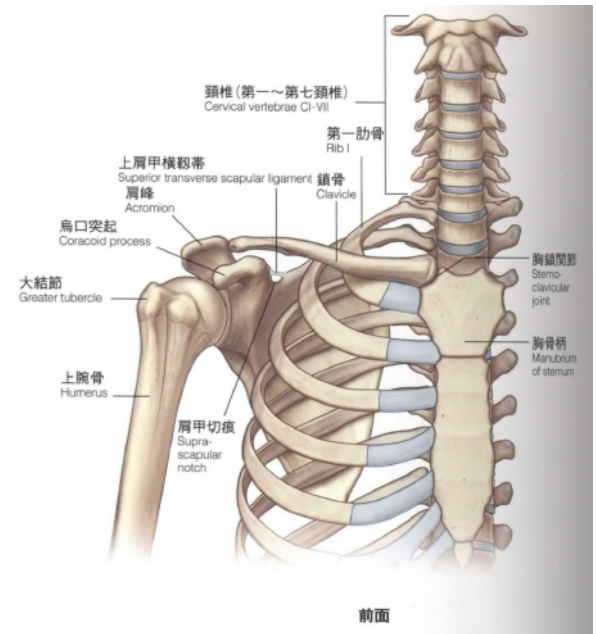
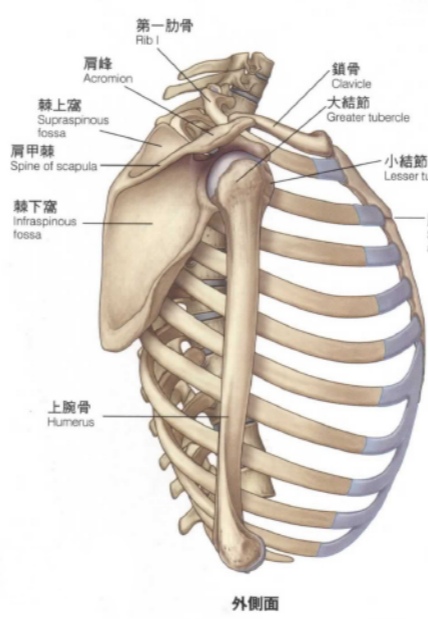
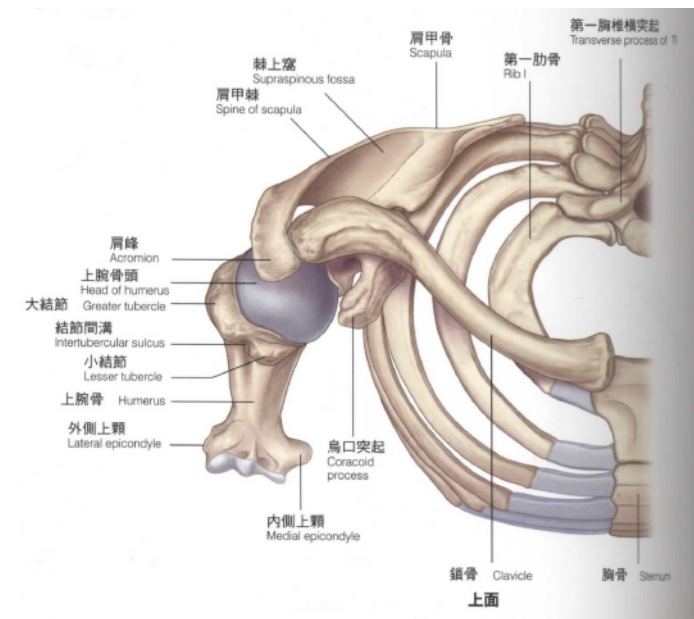
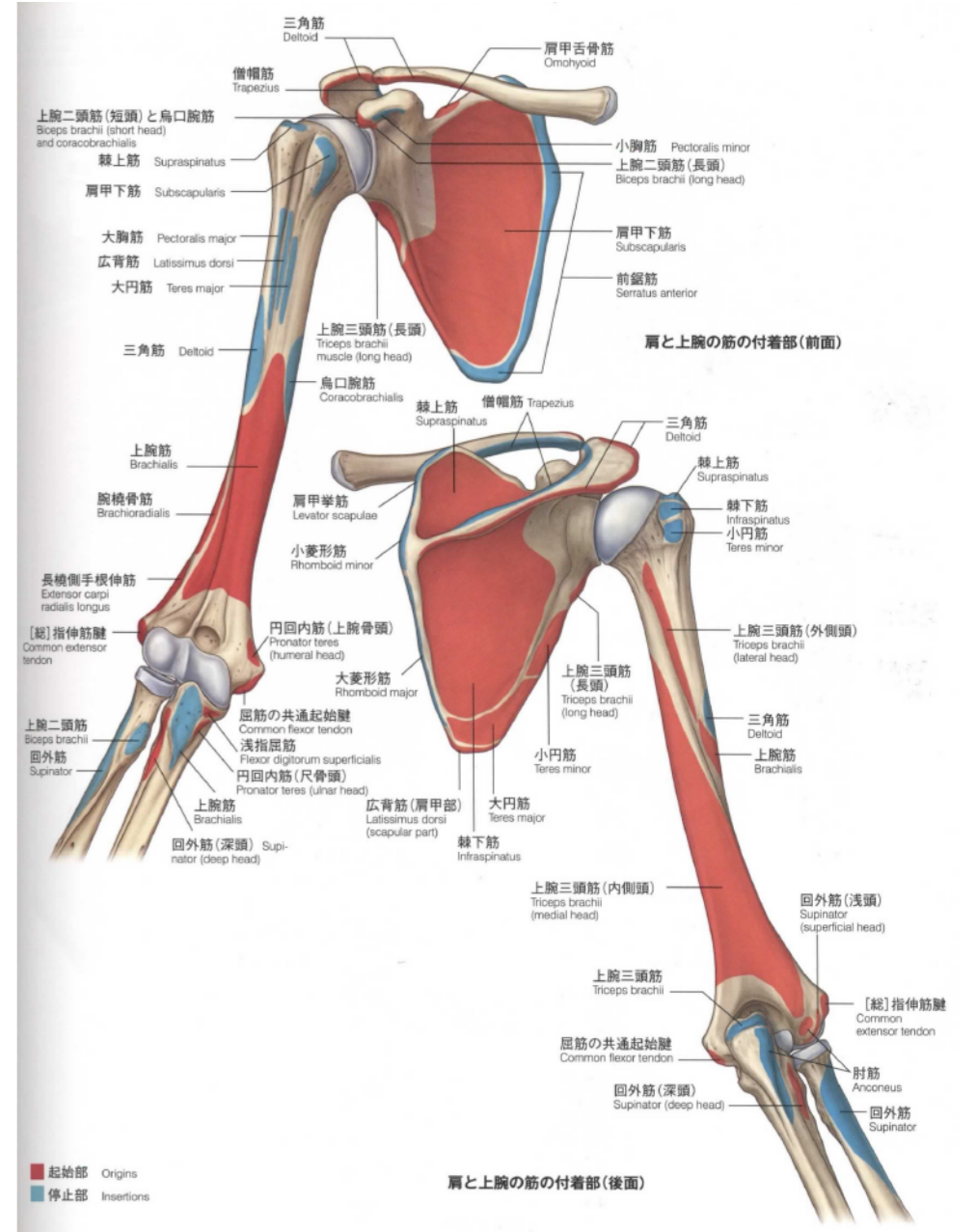
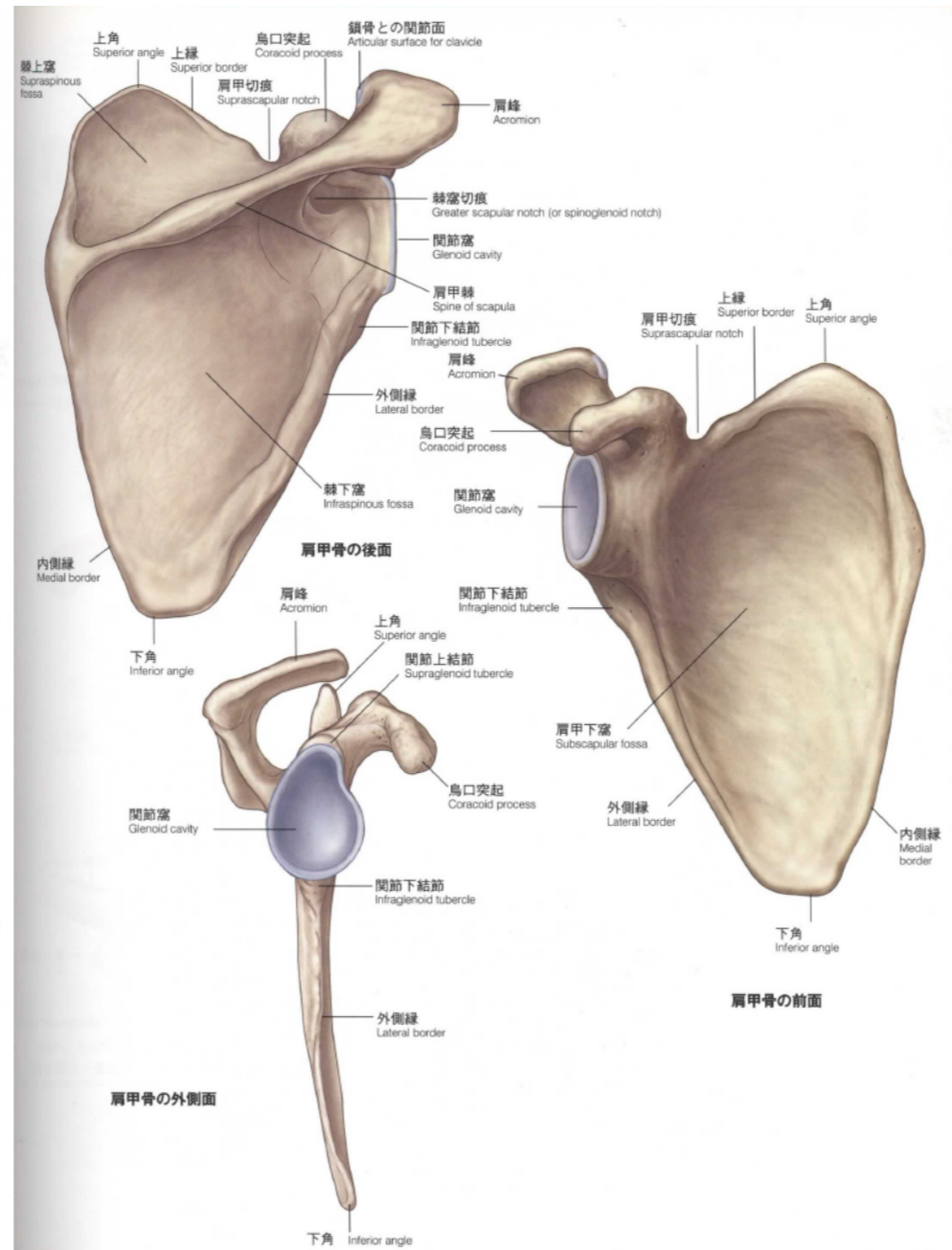
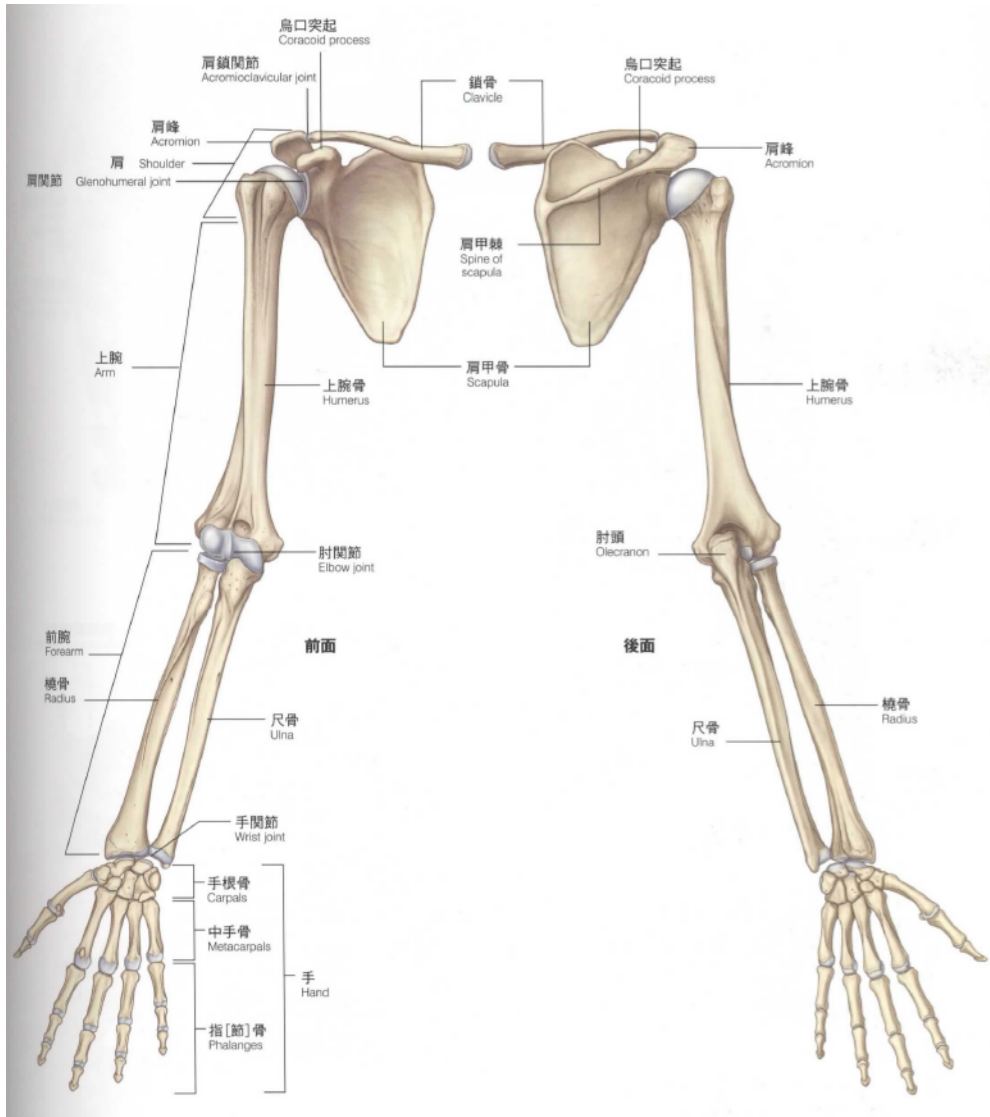
絵の上手さを求めるのではなく、正しいと思われる形状に行きつくためのプロセスやそれに伴う情報収集が重要です。

資料 A



課題イラストレーション (描き込み用)





資料 B-1

3-2 背(体幹後面)

●腕を側方に挙上する 5 (140°)

水平状態からさらに腕を上げます。肩甲骨がどの程度回旋しているか確認してください。

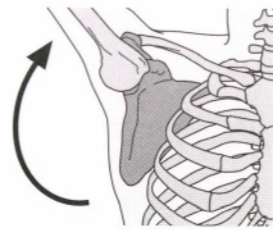


●3段階(90 ~ 150°)

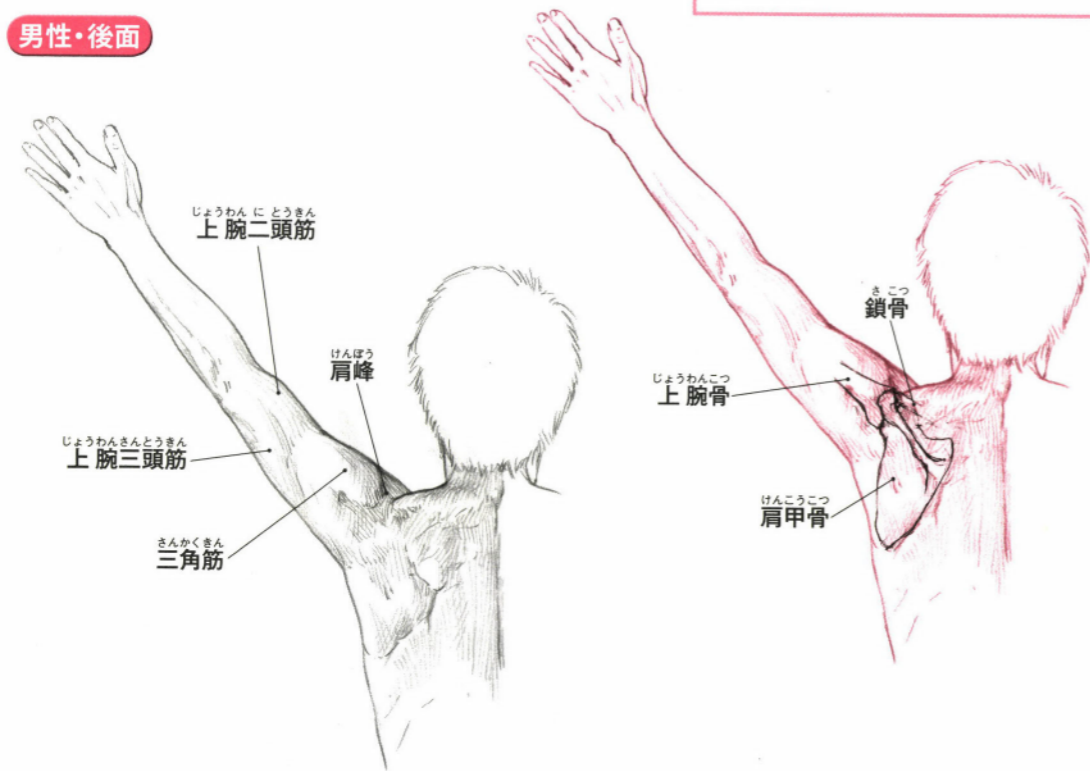
- ・主に僧帽筋と前鋸筋が使われます。
- ・大胸筋と広背筋が伸びます。
- ・肩甲骨の回旋はおおよそ45°です。
- ・前方では胸鎖関節、肩鎖関節で繋がった鎖骨も回旋します。

●肩甲骨の動き(前面より)

腕を挙げていくと肩甲骨も少しずつ回りはじめ、水平を超えると大きく体の外側に出っ張ります。



男性・後面

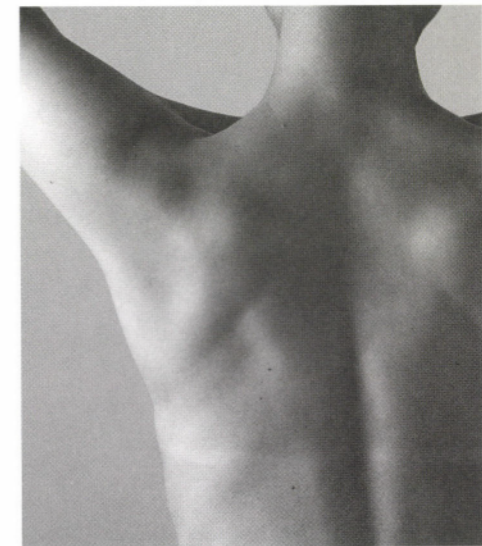


●腕を側方に挙上する 6 (140°)

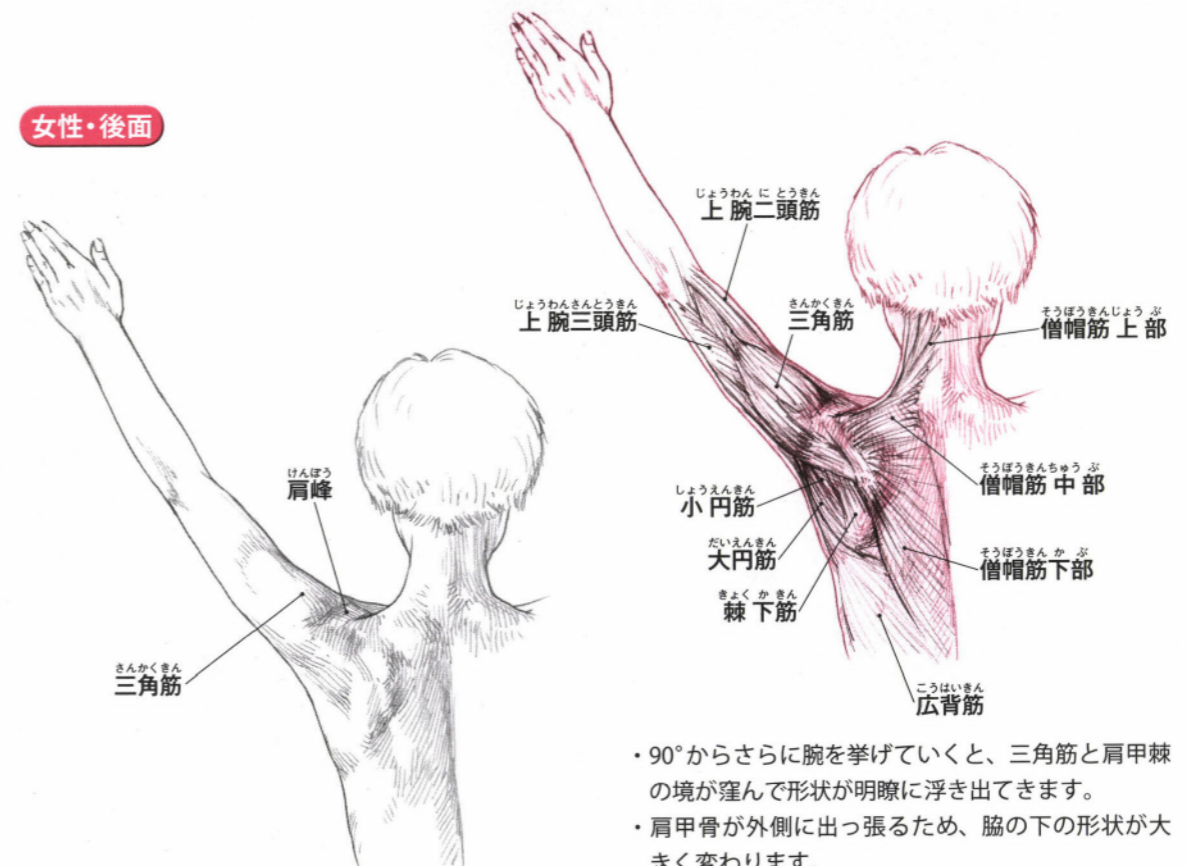
水平状態からさらに腕を上げます。僧帽筋や三角筋などの変化を観察しましょう。



【肩甲部アップ】



女性・後面



- ・90°からさらに腕を挙げていくと、三角筋と肩甲棘の境が窪んで形状が明瞭に浮き出てきます。
- ・肩甲骨が外側に出っ張るため、脇の下形状が大きく変わります。

1 全身

2 頭と顔(頭部)

3 首・背・肩

4 体幹(胸・腹・腰)

5 腕と手(上肢)

6 脚と足(下肢)

資料 C